

令和7年10月17日  
諏訪市立諏訪南中学校長 増村隆洋

## 令和7年度 前期後期終始業式 校長講話

それでは、前期後期終始業式の校長講話を始めます。

さて、諏訪南中学校の愛言葉は？ みんな答えられますね。「夢叶うまで挑戦」です。

今日は、みなさんと同じ年代で、身体にハンディキャップがありながら、自分の夢に向かって挑戦し続けている野球少年の話をしたいと思います。

彼は、田淵川真朋くんといいます。3年前の写真ですが、当時は12歳。この時は日本プロ野球の広島カープジュニアというチームに所属していました。校長先生はある報道番組で彼の存在を知り、とても感動をしたんです。

一見、普通に野球のピッチャーをやっているように見えますが、写真をよく見ると左手に持っているのは右手用のグラブなんです。彼は生まれつき左手に障がいがあり、グラブやボールを握れないとですね。「どうしても野球がしたい」という気持ちが強く、小さい頃からいろいろな工夫や努力を重ねてきました。そして、あるときお父さんから1人のメジャーリーガーの写真を見せられたんです。それは、ジム・アボット投手の写真でした。アボット投手は、田淵川くんと同じように、生まれつき右手首から先がない障がいがあるんです。それでも努力を重ね、大谷選手が以前所属していたエンゼルスやヤンkeesで大活躍しました。通算87勝、ノーヒットノーランも達成しているんです。アボット投手の名言に「人間は不可能を可能にする力を持っている。」があります。

田淵川くんは、自分と同じハンディキャップがありながら、メジャーリーグで活躍したアボット選手に憧れて、努力を続けたんですね。当時、小学生ながら「アボット選手に 追いつき 追い越すくらいの気持ちでやっていきたい」と語っていた姿が印象的でした。あれから3年、校長先生は今年の夏、更に大きく成長した田淵川くんの姿を見たんです。

それがこちらの写真です。今は中学3年生。顔つきも大人っぽくなった印象です。現在は東広島ポニーという硬式野球チームに所属しています。そして今年2025年8月に開催されたU15アジア選手権大会の日本代表選手に選ばれたのです。こちらの映像を見ましょう。時間の関係で映像には入りませんでしたが、彼へのインタビューの中で校長先生は印象に残った言葉があります。それは「左手がないことはハンデだと思っていない。」「左手がないことを『できない』 言い訳にしたくない。」という言葉です。そして彼の指導者からも「彼は野球におけることを全て自分で考えることができる。」というコメントがありました。

夢に向かって挑戦し続けている田淵川くんの姿からいろいろなことを学びました。一つは「憧れ」を抱くことの大切さ。「この人のようになりたい」とか「こんなことができるようになりたい」と憧れを持つことが大切です。そして、覚悟を決める。どんなに苦しくても逃げない心の強さ。さらに、自分で考え工夫すること。これらのことが夢に向かってチャレンジし続ける上で大切なことだと学びました。

後期は、3年生はいよいよ進路選択、進路実現の時を迎えます。2年生は新生徒会に向けた準備が始まります。1年生は今の学級との別れに向けた学校生活が始まります。

自分の夢、憧れ、目標に向けて挑戦してほしいと思います。応援しています。